



図7 2018年4月22日に行われた火入れの11組と12組周辺の実施過程
 撮影地点は、(1)~(8)は図2-(A)付近、(9)~(12)は図2-(B)、(13)~(15)は図2-(C).聞き取り調査及び動画記録による。

<p>(9) 7:55:03</p>  <p>12組は1人が風下側に火を付けながら遊歩道に向かって下りていた。</p>	<p>(10) 8:02:20</p>  <p>12組では4人が遊歩道から上の草地に火を付けていた。その他の人々はピーナスラインに下りた。</p>
<p>(11) 8:05:30</p>  <p>12組の4人のうち1人が再び草地に上がり、火を付けて始めた。</p>	<p>(12) 8:14:06</p>  <p>遊歩道の上を焼き終えた12組の4人が遊歩道の下の草地に火を付けながら戻ってきた。</p>
<p>(13) 8:37:52</p>  <p>12組全員がピーナスライン沿いの駐車場に集まり、火が下りてくるのを見ていた。</p>	<p>(14) 8:50:30</p>  <p>12組では、燃え残りの草地にピーナスラインから火を入れていた。</p>
<p>(15) 9:25:17</p>  <p>13組と14組の火が出会うと、12組は間もなく解散となった。</p>	

(図7の続き)

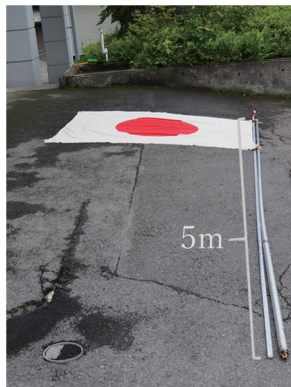


図8 火入れ開始と解散を知らせる日の丸の旗
(2019年著者撮影)



図9 消火に用いられたイチイの枝
(2019年著者撮影)



図10 ジェットシューター
(2019年著者撮影)

司令部の合図で一斉に境焼きを始め、全体に大きな防火帯を作った後、残りの草地を焼くというものであった。

火入れを観光資源とする秋吉台¹⁶⁾や大室山¹⁷⁾では、草地は山型で、その裾野から一斉に火が入れら

れている。1955（昭和30）年頃干草利用を目的に集落毎に火を入れていた木曾町開田高原¹⁸⁾では、草地は小規模な斜面型で、尾根を風下側から等高線に沿って焼き防火帯を広げ、両端を焼いてから、谷の両側から火を入れていた。同じく採草地の維持を目的に火を入れていた岩手県岩泉町安家¹⁹⁾では、尾根に雪が残る時期に火を入れていた。柏原財産区の火入れの方法はこれらのいずれとも異なり、大面積の斜面型の草地を有する霧ヶ峰高原に適した方法であったと考えられる。一方、針葉樹の枝での消火は秋吉台¹⁶⁾、開田高原¹⁸⁾でも見られ、かつて広くみられた方法であったと推測される。

現在柏原財産区のかつての火入れ地は森林化がすすみ、白樺湖周辺からの美しい草山景観も失われつつある。火入れの再開は容易ではないが、火入れには当地域の人々のみが有する様々な知恵があったことを改めて見直す必要があると考える。

今回、柏原財産区の方からは1955年頃の火入れや馬の飼料としての干草の利用方法についても貴重な話をうかがった。これらをまとめることは今後の課題としたい。

謝 辞

本研究を行うにあたり、柏原財産区の皆様には火入れの見学及び撮影、聞き取り調査、現地調査、資料収集、道具の写真撮影に多大なるご協力をいただきました。特に、篠原淳朗さん、北澤昭八さん、両角公明さん、北澤幸雄さん、両角健身さん、両角喜文さん、篠原権蔵さん、柏原遺跡保存会の北澤正直さん、両角徳幸さん、篠原新太郎さん、両角清志さんには大変お世話になりました。ここに厚く御礼を申し上げます。

文 献

- 1) 池 俊介 (2020) 入会林野の観光的利用の展開－蓼科高原白樺湖の事例－. 犬井正編「日本の農山村を識る：市川健夫と現代の地理学」古今書院
- 2) 長野県 (1977) 「長野県潜在自然植生図-28 諏訪」
- 3) 須賀 丈 (2011) なぜ信州の草原なのか？. 湯本貴和・須賀丈編「信州の草原 その歴史をさぐる」ほおずき書籍

- 4) 市川健夫 (1971) 「天竜川」信濃路出版
- 5) 富樫 均・岡本 透・須賀 丈(2018)霧ヶ峰高原に分布する黒色土の14C年代とC/N比.長野県環境保全研究所研究報告, 14:7-12
- 6) 長野県生活環境部環境自然保護課編 (2004) ビーナスライン沿線の保護と利用のあり方研究会提言《最終報告書》
- 7) 栗原雅博・中野浩平・熊田章子・古谷勝則 (2002) 霧ヶ峰の二次草原における伝統的土地利用方法とその衰退に関する研究. 環境情報科学論文集, 16: 115-114
- 8) 長野県環境保全研究所編 (2006)「霧ヶ峰における自然環境の保全と再生に関する調査研究」
- 9) 須賀 丈・小椋勇樹・竹田祐輝・福田勝男 (2006) 霧ヶ峰のチョウ類.長野県環境保全研究所編「霧ヶ峰における自然環境の保全と再生に関する調査研究」57-64
- 10) 長野県 (2005), 「長野県版レッドデータブック 非維管束植物編・植物群落編」
- 11) 諏訪地域振興局 HP: 霧ヶ峰みらい協議会 <https://www.pref.nagano.lg.jp/suwachi/suwachi-kankyo/kankyo/kyogikai/index.html>. (2021年9月16日確認)
- 12) 霧ヶ峰高原草原再生火入れ事業における林野火災の概要 <https://www.pref.nagano.lg.jp/suwachi/suwachi-kankyo/kankyo/kyogikai/documents/21-1-1.pdf>.(2022年2月3日確認)
- 13) 柏原遺跡保存会 (2001)「柏原の暮し 明治・大正・昭和」
- 14) 茅野市編 (1988)「茅野市史 下巻」
- 15) 長野日報 (2019) 2月3日付け朝刊「草原の火入れ廃止」
- 16) 中安直子 (1997) 秋吉台の「山焼き」をめぐる住民意識—伝統的慣行の維持構造—.新地理, 45(1):1-9
- 17) 六車由美 (2007) 山焼きの民俗思想 火を介した自然利用の方法の現代的な可能性.季刊東北学, 11: 56-71
- 18) 浦山佳恵 (2018) 開田高原の昭和 30年代の草地利用, 長野県民俗の会会報, 41:67-80
- 19) 岡 恵介 (2008)「視えざる森の暮らし—北上山地・村の民俗生態史—」大河書房
- 20) 池 俊介 (1986) 長野県蓼科の観光地化による入会林野の変容. 地理学評論, 59(Ser.A)(3):131-153
- 21) 長野県諏訪実業高等学校地歴部 (1963)「柏原の民俗」

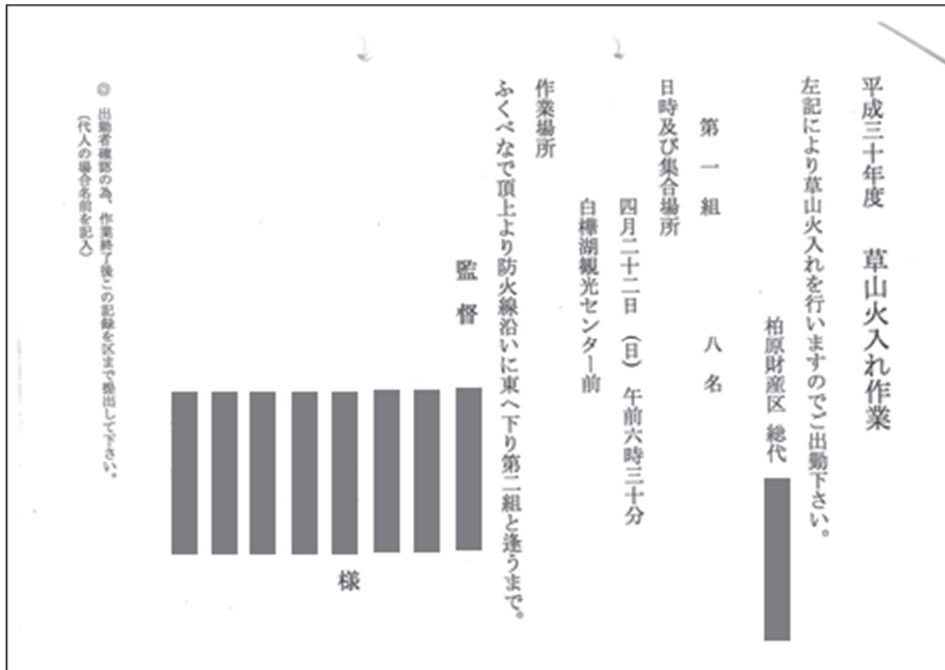
**Field burning in 2018 by the Kashiwabara ward,
in the Kitayama district, Chino City
-The last field burning in Kirigamine highland**

Yoshie URAYAMA¹, Kenichiro HATANAKA¹ and Hideharu MOROZUMI²

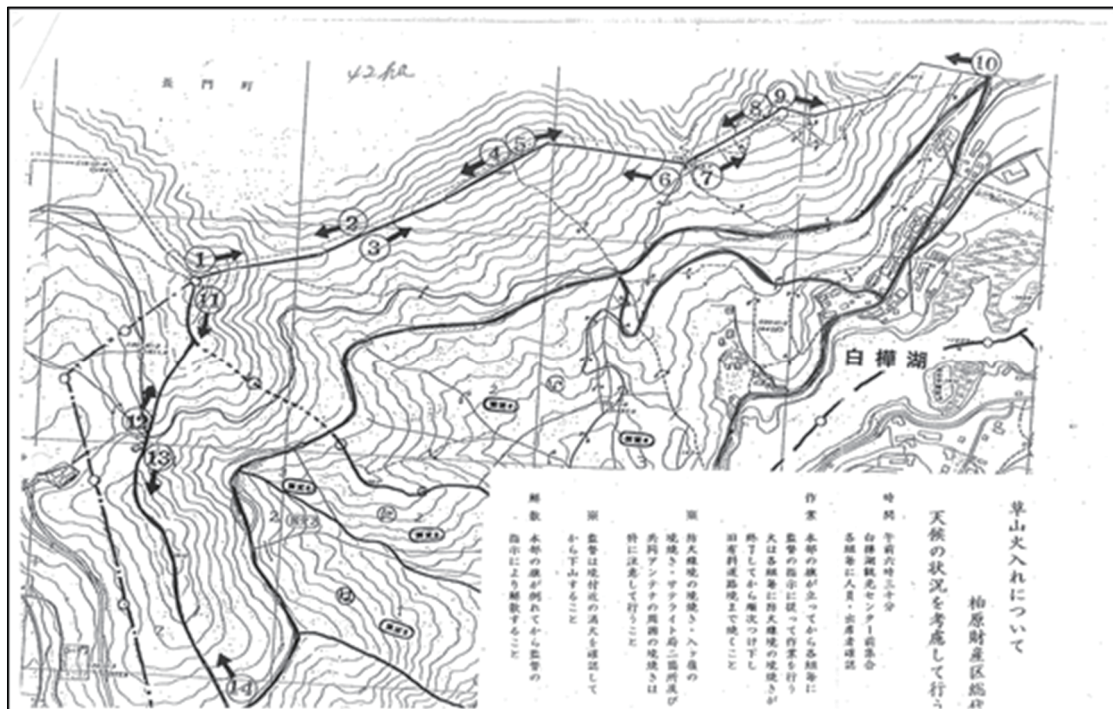
1 Natural Environment Division, Nagano Environmental Conservation Research Institute, 2054-120 Kitago, Nagano 381-0075, Japan

2 Kashiwabara Historical Sites Preserve Association, 2766 Kitayama, Chino 391-0301, Japan

附 図



附図1 「平成三十年度 草山火入れ作業」(2018年, 柏原財産区総代作成)から第1組分を抜粋



附図2 「草山火入れについて」(2018年, 柏原財産区総代作成)